

セゾン・アーティスト・イン・レジデンス オンライン・リサーチ・レジデンシー、参加アーティストのご紹介

セゾン文化財団では、セゾン・アーティスト・イン・レジデンスとして、ダンスやパフォーマンス分野で活動する国内外のアーティストを対象に、オンライン・リサーチ・レジデンシーを実施しております。

オンライン・リサーチ・レジデンシーは創作を見据えたリサーチを支援するプログラムで、アーティストとしての創作活動の領域を広げ、国内外で活動するアーティストとのつながりを深める機会です。

参加アーティストは自身のリサーチと並行し、そのリサーチのプロセスを他の参加アーティストとオンラインでシェアするグループセッションに参加します。期間中、アーティスト独自のダンスの実践やメソッド、リサーチのアイデアや方法論をシェアするオンライン・ワークショップや成果発表を開催する予定です。アーティストが自由なリサーチからいかに新しいダンスを生み出していくのか、どうぞご期待ください。

オンライン・リサーチ・レジデンシー：2021年1月13日(水)ー3月24日(水)

□参加アーティスト



クリスティン・ブリニーニャ
Kristine Brīniņa [ラトビア]
ダンサー、振付家



ハラサオリ
Saori Hala [日本/ドイツ]
パフォーマンス・アーティスト



Photo: Oliver Holms

エイドリアン・ハート
Adrienne Hart [英国]
ネオン・ダンス芸術監督、振付家



Photo: bozzo

神村恵
Megumi Kamimura [日本]
振付家、ダンサー



アチャイエ・ケルネン
Acaye Kerunen [ウガンダ]
振付家



Photo: C. Bang.

デ克蘭・ウィテカー
Declan Whitaker [アイルランド/スイス]
振付家、ダンサー

ーオンライン・リサーチ・レジデンシー関連イベントー

■ オンライン・ワークショップ：① 2月14日(日)、② 2月20日(土)、③ 2月27日(土)

※オンライン・ワークショップは各日程ともに18:00-21:00に実施を予定しています。ご参加を希望の方は、

当財団のウェブサイトから各回の内容や申込方法をご確認ください。http://www.saison.or.jp/r_morishita/index.html

■ 成果発表：3月24日(水)[予定]

※成果発表は一般公開いたします。詳しい内容や開催方法は、後日、当財団のウェブサイトで告知いたします。

クリスティン・ブリニーニャ Kristīne Brīniņa [ラトビア]

- リサーチ・タイトル 氷山のようにゆっくり溶ける身体／The body melts slowly like an iceberg
- リサーチ概要 人間の身体と気候変動が辿っているプロセスの類似点を「回復」の観点から考える。環境学者等と産業革命以後の地球の変化を調査し、得られた情報に基づき精神科医や整骨医と議論する。並行して、深刻な病気等からの回復の体験談を集め、それらの例から、人間の身体の回復から類推しうる地球の回復方法を考え、物語と振付を生み出していく。
- プロフィール ダンサー、振付家。ラトビアを拠点に活動。ラトビア文化アカデミー・ダンス科卒業後、2019年、リエパーヤ大学でメディアアートを学ぶ。日常生活での状況や動きの繊細な流用・再現を試みる独自の「ドキュメンタリー・ダンス・メソッド」に基づき創作する。2020年、最も普遍的かつもろい人間の状態を示す「睡眠」をテーマとした映像作品『a quiet place』を発表。

ハラサオリ Saori HALA [日本/ドイツ]

- リサーチ・タイトル 遠い実存のための振付／The Choreography for Tele-beings
- リサーチ概要 声のインストラクションによるダンス作品を構想。動作の指示、権力、身体教育、音声メディア、ダンスノーテーション等のトピックに基づき、いかにして動作を他のメディアに変換することができるか、パフォーマンス・アーティストが作品を見せる際に権力を扱う手つきはどうあるべきか、について考察していく。
- プロフィール パフォーマンス・アーティスト。ベルリン在住。デザイン理論に基づいたパフォーマンス作品の制作を通して、サイトスペシフィックな空間と時間における即物的身体の在り方を探究している。2019年、Dance New Air 2020 プレ公演では、慶応義塾大学の旧ノグチ・ルームを舞台に『no room』を発表。2020年、ゲーテ・インスティテュート東京では、本リサーチの出発点となる『遠い実存のための振付』のワークインプログレスを発表。

エイドリアン・ハート Adrienne Hart [英国]

- リサーチ・タイトル 花開く捕捉／Prehension blooms
- リサーチ概要 孤独、交友、帰属をテーマとしたリサーチ。21世紀における個々人の場所、物、他者とのつながりに着目し、社会的な孤独感を、精神的及び身体的な面から調査する。また、複雑系や人工生命の研究で知られる池上高志教授をメンターに迎え、ヴィジュアル・アーティスト、照明デザイナー、作曲家と共に、ロボットが運動と接触にいかにかに反応しうるかを試行する。
- プロフィール ネオン・ダンス芸術監督、振付家。ネオン・ダンスではテクノロジー、デザイン、身体に関わるアーティスト及び技術者と積極的にコラボレーションを行っている。人間の身体と周囲の環境の関係性を攪乱する荒川修作＋マドリン・ギンズの世界に着想を得た近作『Puzzle Creature』は、越後妻有アートトリエンナーレ 2018 及び瀬戸内国際芸術祭 2019 に招聘された。

神村 恵 Megumi Kamimura [日本]

- リサーチ・タイトル 街に書かれた標識を踊る／Dance the instructions already written in town
- リサーチ概要 人間の動作を振り付ける物理的環境への関心に基づき、読めない外国語で書かれた標識を街で探し、それらに基づいたダンススコアを制作する。他の参加アーティストの協力を募りながら標識の写真を集め、それらを意味でなく視覚の観点から集約したスコアをいくつか制作して試演する予定。
- プロフィール 振付家、ダンサー。物質性、言語、他者との関係性といった多様な観点から身体を観察しその動作の基盤を再構築する。2004年より国内外の様々な場所でソロパフォーマンスを行う一方、美術家・高嶋晋一とのユニット「前後」を2011年に、美術家・津田道子とのユニット「乳歯」を2016年に結成。2020年、国際芸術センター青森に滞在し、ソロ作品《彼女は30分前にはここにいた。》を発展させ、ワークインプログレスを公開。

アチャイエ・エリザベス・パメラ・ケルネン Acaye Elizabeth Pamela Kerunen [ウガンダ]

- リサーチ・タイトル アイイイイ／Aiiii
- リサーチ概要 ウガンダと日本で共通するニュアンスを持つ擬音語、「Aiiii」（日本語ではアイ、スワヒリ語では ai）を出発点とした、武芸を題材としたダンス作品に向けたリサーチ。日本文化に特徴的な身体動作と哲学の文献調査や、同時代の日本のダンス・アーティストに関する情報収集を行うことで、日本とウガンダにおける身体に関する文化的知見を比較対照する。
- プロフィール 文化教育、ヨガ、現代表現の交差点で振付家として、ウガンダを拠点に活動。フィットネスセラピスト及びヨガ講師としてダンスセラピーも実践する一方、執筆活動も行う。国境を超えた取り組みと詩を活動の特徴とする。2019年、ウガンダの Bayimba Festival of Art にて、詩と音楽を用いた多言語パフォーマンス『Mubiri Bubiri』を発表。

デクラン・ウイテカー Declan Whitaker [アイルランド／スイス]

- リサーチ・タイトル 良いことが訪れる／Good things come
- リサーチ概要 2019年に発表した作品『To Those Who Wait』の続編、『Good things come』の制作に向けたリサーチ。タイトルである慣用句が意味する、「よき未来を約束することで現在の不安をなだめる」ダイナミックかつ停滞した時間を考察するため、問題解決を遅らせる世界的傾向を調査し、音楽、ダンス、演劇等それぞれの「リハーサル」のあり方を調べる。
- プロフィール 振付家・ダンサー。タンツハウス・チューリヒに拠点を置くコレクティブ、The Field のメンバーで、現在、スイスを拠点に活動。芸術が有する自由の政治性に関心を持ち、舞台芸術に関する慣習の転覆を試行している。ポップ・カルチャーの影響が色濃い作品を創作。としても活動。The Field は2020年、欧州有数のフェスティバル「チューリヒ・テアター・シュベクターケル」で作品を上演している。